

新津駅周辺地区

(新潟県新潟市)

- 計 画 期 間 平成 18 年度～平成 22 年度
- 面 積 800 h a
- 交付対象事業費 1,794 百万円
- 市人口 776,468 人

ポイント 都市機能の集積を活かした地域の自立
に向けた拠点整備事業

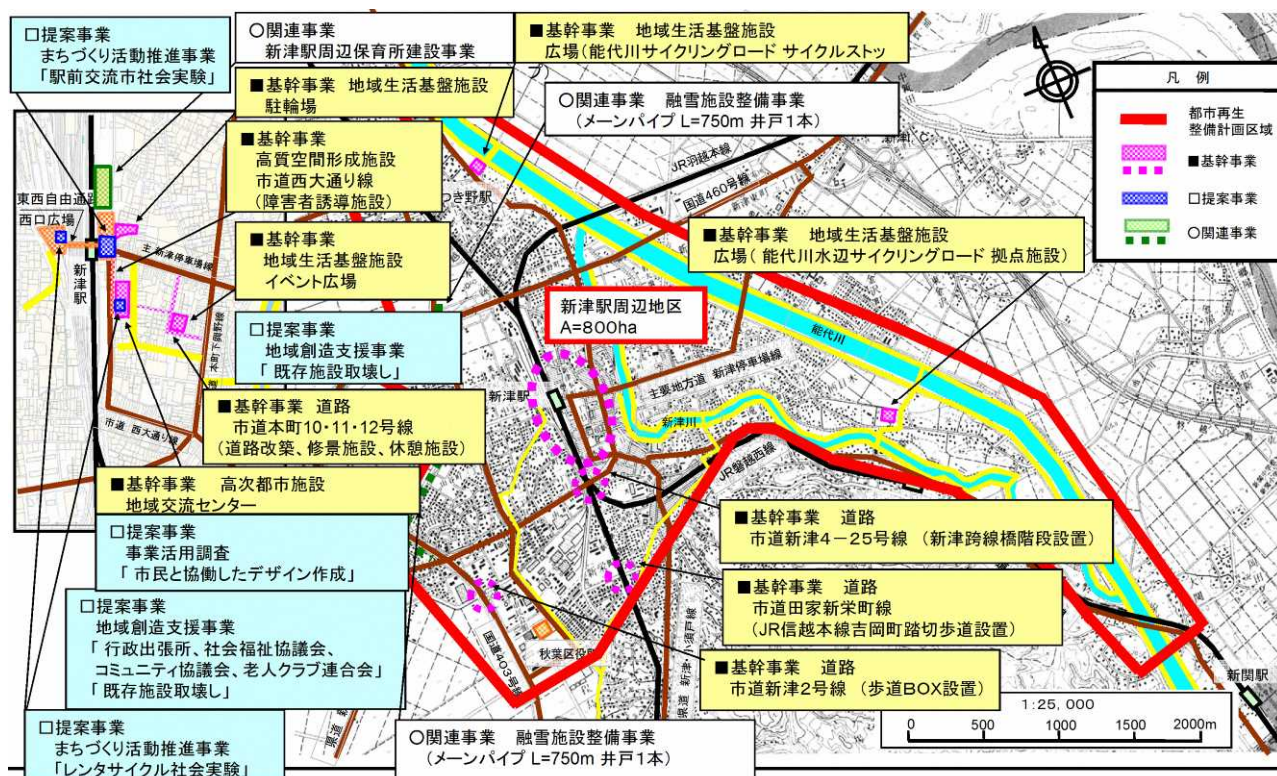
地区概要 地域交流センター等の基幹事業を駅周辺に、
市民主体の活動やイベント等を通じた交流の拠
点として整備して、地域性を活かした楽しめる
まちの再生を図る。

目 標 市民活動、交流及び地域福祉機能のある拠点形成を図り、地域の自立したまちづくりを目指す。

指 標 市民が主体となった拠点を
駅周辺に整備することにより、市民活動や交流が数
多く展開される相乗効果を
目標にした。

項 目	現況値 (年) → 見込み値 (年) → 実績値 (年)
新津本町地区内歩行者通行量	5,370 人 (H17) → 5,640 人 (H22) → 5,568 人 (H22)
地域交流センターの年間利用者数	54,000 人 (H16) → 60,900 人 (H22) → 52,192 人 (H22)
レンタサイクル利用者	1,700 台 (H16) → 3,400 台 (H22) → 788 人 (H22)

事業内容 基幹事業 (1,528 百万円) → 道路 (幅員 2m～11m、延長 396m)、イベント広場 (1 箇所 1,600 m²)
自転車駐車場 (1 箇所、800 m² 300 台)、サイクリング休憩広場 (2 箇所
1,870 m²)、地域交流センター (1 箇所 延床 3,260 m²)
提案事業 (365 百万円) → レンタサイクル社会実験 (2 箇所 50 台)、駅前交流市社会実験 (1 箇
所 5,000 m²) 市民と協働したデザイン作成、地域交流センター福祉機能
(延床 490 m²)、既存施設取壊し (2 箇所 3,790 m²)



地区の現況と課題

当地区はＪＲ三線が交差する鉄道の要衝である新津駅を中心に、古くから居住、商業、業務の中心的な役割を果たしてきた地域である。しかし、郊外への大型小売店の立郊外への大規模小売店の立地や公的機関の移転、活動拠点の周辺地域への分散化等による地域の中心的役割が低下してきているのが現状である。人口が集中し、公共交通の利便性が良いにもかかわらず、地域住民等からの要望の強い活動、交流施設がなく、また、公園や緑地も少ないため、市民が憩える空間や災害時に必要な公共空地が不足しており、地域住民の高齢化に伴い、街で生活を楽しむ機能が求められている。

提案事業の特徴

レンタサイクル社会実験

新津駅から延びているサイクリングロードを活用し、来街者を周辺の都市公園や河川緑地広場等への移動支援をするためのレンタサイクルについて需要を調査する。

駅前交流市社会実験

新津駅周辺でイベント等の交流や地域活動をする団体を増やし、育成していくため、農家や商業者で構成するまちづくり協議会による市（イチ）などのイベントを実施し、今後整備するイベント広場の活用方法や運営組織のあり方などを調査する。

市民と協働したデザイン作成

自治会や施設利用団体及びＮＰＯ等の参加による検討会を開催し、市民活動、交流及び地域福祉機能を備えた地域交流センターのレイアウトについて、検討する。

計画策定プロセス

アンケートの実施

本町地区周辺に居住している住民 1,000 人及び市の施設に利用登録している 150 団体を対象にアンケートを実施し、地区の整備や施設利用に関して意向調査を行った。

まちづくり意見交換会の開催

「地区の現状と課題について、市民と行政が共通のイメージをもつこと」「今後、整備計画を策定していく上で、基本となる地区のあるべき姿（将来像）」について意見を整理することを目的に意見交換会を市民 36 名が参加して 2 回開催した。



(f)活力が低下している新津駅前通り



(f)新津川サイクリングロードとレンタサイクルステーション



(f)新津駅東口でのイベントの様子



(f)まちづくり意見交換会の様子